

週間火山概況（平成 24 年 6 月 22 日～ 6 月 28 日）

【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

26日に霧島山（新燃岳）の火口周辺警報を切り替え、警戒範囲を火口から概ね 3 km の範囲から概ね 2 km の範囲に縮小しました。（噴火警戒レベル 3（入山規制）は継続）。

その他の火山は、噴火に関する予報警報事項（警戒すべき事柄）に変更はありません。

表 1 火山現象に関する警報及び予報の発表履歴（6 月 22 日～ 6 月 28 日）

発表日時	火山名	警報・予報	概 要
26 日 18 時 00 分	霧島山（新燃岳）	火口周辺警報	火口周辺警報切り替え （噴火警戒レベル 3（入山規制）継続）
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 6 月 28 日現在の噴火警報・噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	霧島山（新燃岳）、桜島
	レベル 2（火口周辺規制）	三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
火口周辺警報及び火山現象に関する海上警報	火口周辺危険及び 周辺海域警戒	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福德岡ノ場
噴火予報	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、新潟焼山、焼岳、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、口永良部島
	平常	上記以外の活火山

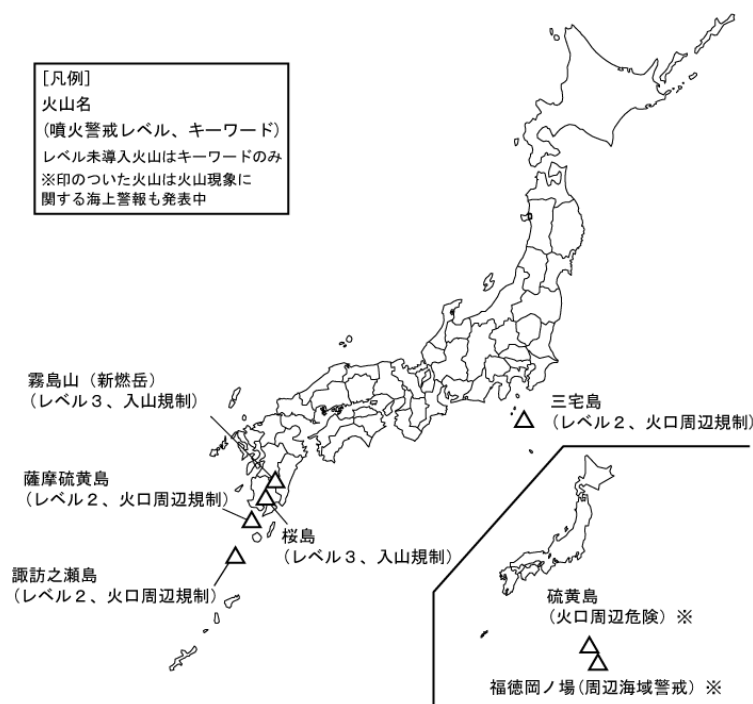


図 1 噴火警報及び火山現象に関する海上警報発表中の火山（6 月 28 日現在）

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

三宅島^{みやけじま}【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

今期間、悪天候のため噴煙の状況は確認できませんでしたが、火山活動に特段の変化は認められませんでした。

火山性地震はやや少ない状態で経過しました。

28日09時40分頃に山頂付近を震源とする火山性地震が発生し、三宅村神着で震度1を観測しました。地震発生時の噴煙の状況は悪天候のため確認できませんでしたが、空振計や地殻変動等の観測データに特段の変化は認められませんでした。

三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要です。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性がある予想される地域では、火山ガスに対する警戒が必要です。

硫黄島^{いおうとう}【火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報】

4月下旬から5月初めにかけて火山活動が活発化し、国土地理院の地殻変動観測でも、急速な隆起の後に沈降を観測しましたが、その後沈降傾向は鈍化し、今期間はほぼ停滞しています。火山性地震は少ない状態で経過しており、火山性微動は観測されませんでした。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、4月末に新たに噴気が確認された島北部や変色水がみられた北東沖、従来から小規模な噴火がみられていた島東部の海岸付近、島西部（井戸ヶ浜等）及び南東沖（^{おきなほま}翁浜沖）では噴火に対する警戒が必要です。

福德岡ノ場^{ふくとくあかのば}【噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報】

第三管区海上保安本部が25日に上空から実施した観測によると、福德岡ノ場の火山活動によるとみられる湧出点付近で、直径約50～60m程度の青白色の変色水が確認されました。

これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による上空からの観測でも、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要です。

霧島山（新燃岳）^{きりしまやま しんもろだけ}【火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）】 ←26日18時00分に火口周辺警報を切り替えます。警戒範囲を3kmから2kmに縮小。（噴火警戒レベル3（入山規制）継続）

新燃岳では、噴火は発生しませんでした。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されませんでした。

傾斜計¹⁾では、火山活動に伴う特段の変化は認められませんでした。

国土地理院の地殻変動観測結果によると、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は、2011年12月頃から鈍化し、2012年1月以降ほぼ停滞していましたが、一部の基線では5月頃からわずかに縮みの傾向がみられます。

しかしながら新燃岳の北西地下深くのマグマだまりには相当量のマグマが蓄積されています。また、新燃岳直下の火山性地震の活動や火山ガスの放出も少ないながらも続いており、火口には高温の溶岩が溜まっていることから、現在でも小規模な噴火が発生する可能性は否定できません。

新燃岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒が必要です。噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石²⁾（火山れき³⁾）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。噴火警報等及び霧島山上空の風情報に留意してください。降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に留意してください。

さくらじま

桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

桜島では、活発な噴火活動が続いています。

昭和火口では、爆発的噴火が14回発生し、大きな噴石²⁾が4合目（昭和火口より800～1,300m）まで達しました。

南岳山頂火口では、噴火は発生しませんでした。

火山性地震は、22日と24日にやや増加しましたが、それ以外は少ない状態で経過しました。噴火に伴う火山性微動が時々発生しました。

22日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は1日あたり1,800トン（前回13日、2,400トン）とやや多い状態でした。

国土地理院の地殻変動観測結果によると、^{あいら}始良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられています。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石²⁾（火山れき³⁾）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

さつまいおうじま

薩摩硫黄島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は、やや高い状態が続いています。28日に同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を観測しました。

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要です。噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石²⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

すわのせじま

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

^{あたけ}御岳火口では今期間噴火は観測されませんでしたが、長期にわたり噴火を繰り返しています。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測しました。

火山性地震は少ない状態が続いています。振幅の小さな火山性微動が時々発生しています。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾に警戒が必要です。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石²⁾が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

ばんだいさん

磐梯山[噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

25日05時22分頃に、継続時間約45秒の火山性微動を観測しました。火山性微動を観測したのは2009年6月9日以来です。

火山性微動の前後を含む今期間、火山性地震は観測されず、傾斜計やGPSによる地殻変動観測、遠望カメラによる観測で特段の変化は認められませんでした。

現在のところ、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

あそさん

阿蘇山[噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

中岳第一火口では、火山活動がわずかながら高まっています。

火山性地震および孤立型微動は少ない状態ですが、2月頃からわずかながら増加傾向を示しています。

中岳第一火口の湯だまり量は4月中旬までは9割でしたが、その後徐々に減少し、5月には6割、6月中旬には3割まで減少しました。表面温度も4月上旬は60程度でしたが、4月中旬頃からゆるやかに上昇し、6月上旬から70以上の高温状態が続いています。また、南側火口壁の温度も昨年11月頃より上昇傾向が見られます。なお、28日に行った現地調査では、湯だまり量は7割に回復し、表面温度

はやや下がり 67 でした。しかし、これは 15 日以降の大雨による影響と考えられ、今後の推移に注意が必要です。

火口内では土砂や火山灰の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

- 1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。
- 2) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 3) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。

注) データについては精査により、後日修正することがあります。

【参考】 噴火警報・噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山	
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）	
レベル 5（避難）	噴火警報	居住地域厳重警戒 または山麓厳重警戒*	
レベル 4（避難準備）		入山危険	
レベル 3（入山規制）	火口周辺警報	火口周辺危険	
レベル 2（火口周辺規制）	噴火予報	平常	
レベル 1（平常）			

*居住地域が不明確な場合

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表します。